

走れ
ビーバス

「やさしさ」と「ふれあい」を乗せて



「千歳市循環型コミュニティバス ビーバス運行見直し項目」の概要

見直し項目の内容

(1) 千歳駅前バス停における乗降場所の柔軟な運用

平成 16 年に完了した千歳駅周辺整備事業において、それまでの駅前バス乗降場を乗車場所と降車場所に分けバス発着の効率化を図ってまいりましたが、千歳駅東口方面からの駅前経由のバス路線に限り、東口・西口両方のバスのりばで降車できることとし、高齢者等のペウレ側への移動の円滑化を図るため見直しをします。

(2) 市立図書館へのルート延長、バス停新設

現在コミュニティバス路線から外れている図書館へのルート延長については、平成 14 年と今回の実態調査においても市民要望が多くありました。また市立図書館からの要請もあることから、市民が集う公共施設としての重要性を勘案し、本町の国道 36 号と川南通交差点から図書館へ片道約 400m ルートを延長し、バス停を新設することを計画しています。

なお、A コースにおける「山三ふじや前」から図書館への右折については、国道上の車線変更が困難なことから、同バス停を国道沿いから川南通りへの移設も予定しています。

(3) やまとの杜団地付近へのバス停新設

現在のコミュニティバス路線の「緑小学校前」と「春日町 5 丁目」の間に位置するやまとの杜団地は、シルバーハウジングとしての機能を有し高齢者の入居も多いことから、利便性を勘案して団地付近にバス停の新設を計画しています。

(4) 土日祝日の平日並み便数の運行 (6 便を 8 便に)

現在、土日祝日は平日の始発便と最終便を減便して運行していますが、これを平日並み便数で運行することを計画しています。ただし、この計画については試験運行を実施した結果を検証し運行するかどうかを検討します。

なお、試験運行の期間は 3 か月程度とします。

見直し方針

- ・調査結果では、利用者から経路等の大きな変更を望む声は多くはありませんでしたが、運行便数の増加や運行時間帯の拡大については、多くの利用者からの要望がありました。
- ・運行便数の増加は、運行サービスの改善になりますが、一方で新たな車両の購入が必要となり、費用対効果の側面から慎重な検討が必要となります。
- ・また、運行時間帯の拡大については既存路線バスとの競合が生じ、路線バスの補完的役割という運行当初の考え方から逸脱することから、現状では非常に難しい課題があります。
- ・このようなことから、今回は初回の見直しであるため抜本的なルート等の変更ではなく、現行ルートと時間枠の維持を基本とし、その上で、ピーバスの主な利用者層である高齢者や主婦に配慮したサービス内容の改善により、利便性の向上を図ることとします。
- ・そのため、今年度もその効果を最大限に発揮するよう、沿線施設との連携による情報提供など利用促進の取り組みを実施しながら、地域全体での公共交通の盛り上げ策に努めていきます。

見直しによる効果と影響

- (1) 千歳駅前バス停における乗降場所の柔軟な運用
 - ・高齢者の移動の円滑化が図られます。
 - ・高齢者や子どものバス道路横断時の事故予防が図られます。
- (2) 市立図書館へのルート延長、バス停新設
 - ・市民の利用頻度の高い図書館及び周辺体育施設へのアクセスが可能となります。
 - ・年間の運行経費として約 1,230,000 円の増加となります。
 - ・1 週の運行時間が約 5 分延長することになります。(現在は 1 週 70 分)
- (3) やまとの杜団地付近へのバス停新設
 - ・高齢者の移動の円滑化及び外出機会の増加が図られます。
- (4) 土日祝日の平日並み便数の運行 (6 便を 8 便に)
 - ・利用者の増加が見込めます。
 - ・年間の運行経費として約 2,240,000 円の増加となり、収入としては約 1,276,000 円が見込まれます。
収入額算定根拠
昨年度の土日祝日の 1 便当たり利用者平均 16.3 人、増加便数 480 便、平均運賃 163 円で計算